

2004年出土の木簡



- 新潟・西川内北遺跡 にしかわうちきた
- | | |
|---------------|--|
| 所在地 | 新潟県胎内市（旧北蒲原郡中条町）大字西川内 |
| 調査期間 | 一〇〇四年（平16）八月 |
| 発掘機関 | 中条町教育委員会 |
| 調査担当者 | 吉村光彦 |
| 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 遺跡の年代 | 八世紀 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 西川内北遺跡は、沖積地に位置する集落遺跡である。今回の調査は、県営圃場整備事業に伴う道路予定地の事前調査である。調査の西川内北遺跡は、沖積地に位置する集落遺跡である。今回の調査は、県営圃場整備事業に伴う道路予定地の事前調査である。調査の結果、遺構はほとんど検出されず、長期に人が居住していた痕跡は確認できなかつた。また、遺物の出土量も非常に少なかつた。 |

木簡は、包含層から一点出土した。遺構に伴うものではなく、共伴遺物も少ないとため、時期の特定は困難

であるが、出土状況は比較的最近のものと思われる様相を呈してい
た。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「和衛門□□

(133)×29×5 011

上下両端は切削されており、上端は原形をとどめている可能性がある。下端に向かって左右両辺から細く削り出されており、○五一型式を原形とする可能性がある。内容からみても古代の木簡ではあり得ず、近世の荷札木簡の類とみるのが穩当であろう。

なお、釈読にあたつては、奈良文化財研究所史料調査室の方々の教示を得た。

(水澤幸一)

